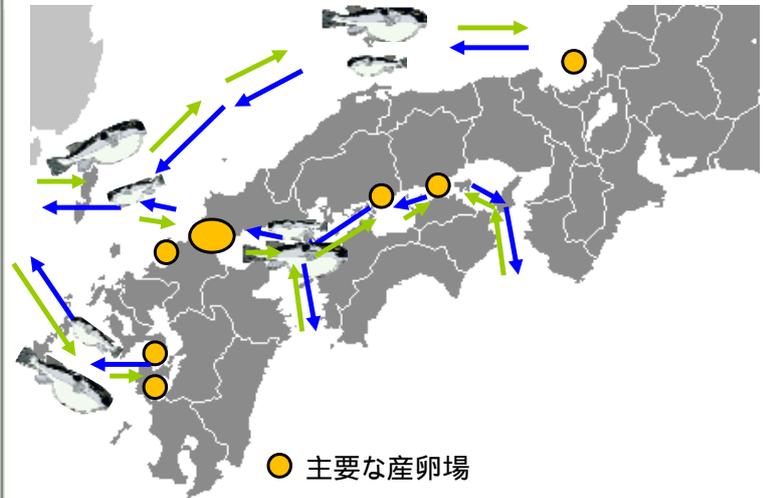


・トラフグの分布・生態について

- 主な産卵場は、八郎瀨周辺、七尾湾、若狭湾、福岡湾、有明海、八代海、関門海峡周辺、布刈瀬戸、備讃瀬戸など。産卵期は3月から6月頃で、水温の上昇とともに北上。
- 稚魚は産卵場周辺を成育場とし、成長に伴って回遊し、再び産卵場に回帰。

トラフグ日本海、東シナ海、瀬戸内海系群



日本海や九州の発生群は日本海、東シナ海及び黄海へ移動。瀬戸内海の発生群は豊後水道以南、紀伊水道以南、日本海、東シナ海及び黄海へ回遊

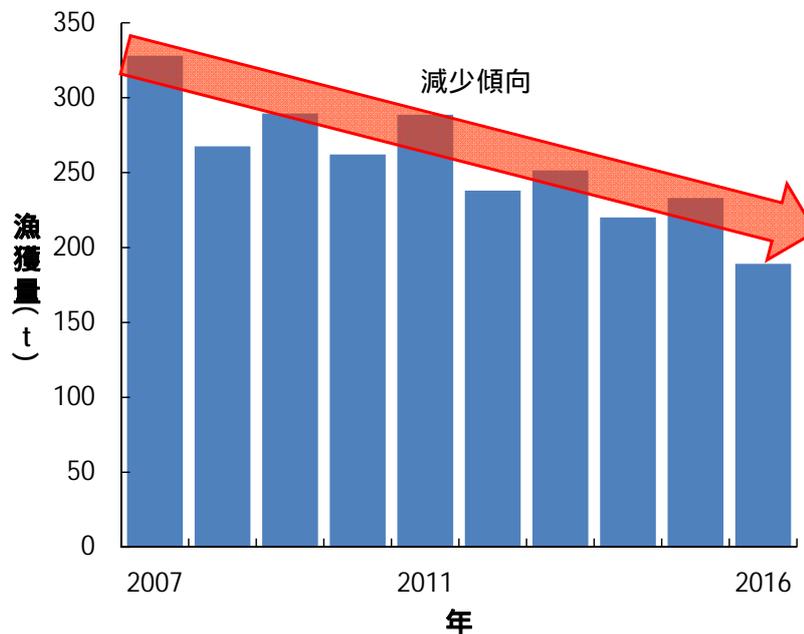
水産庁資料

1

・トラフグの漁獲動向について

- 近年の漁獲量は減少傾向で、2016(平成28)年の漁獲量は189トン。

近年の漁獲動向



長期の漁獲量データがなく、長期的な漁獲量の指標として、下関唐戸魚市場の取扱量

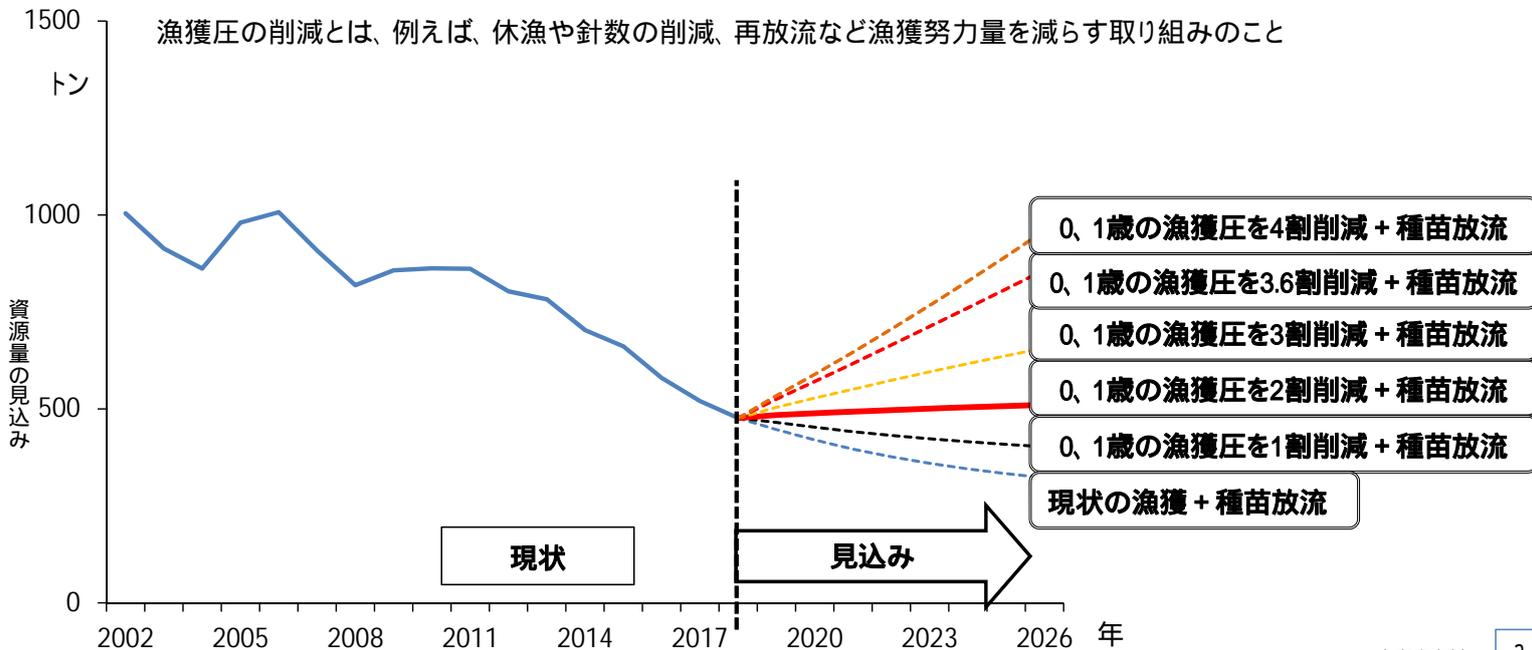
水産庁資料

2

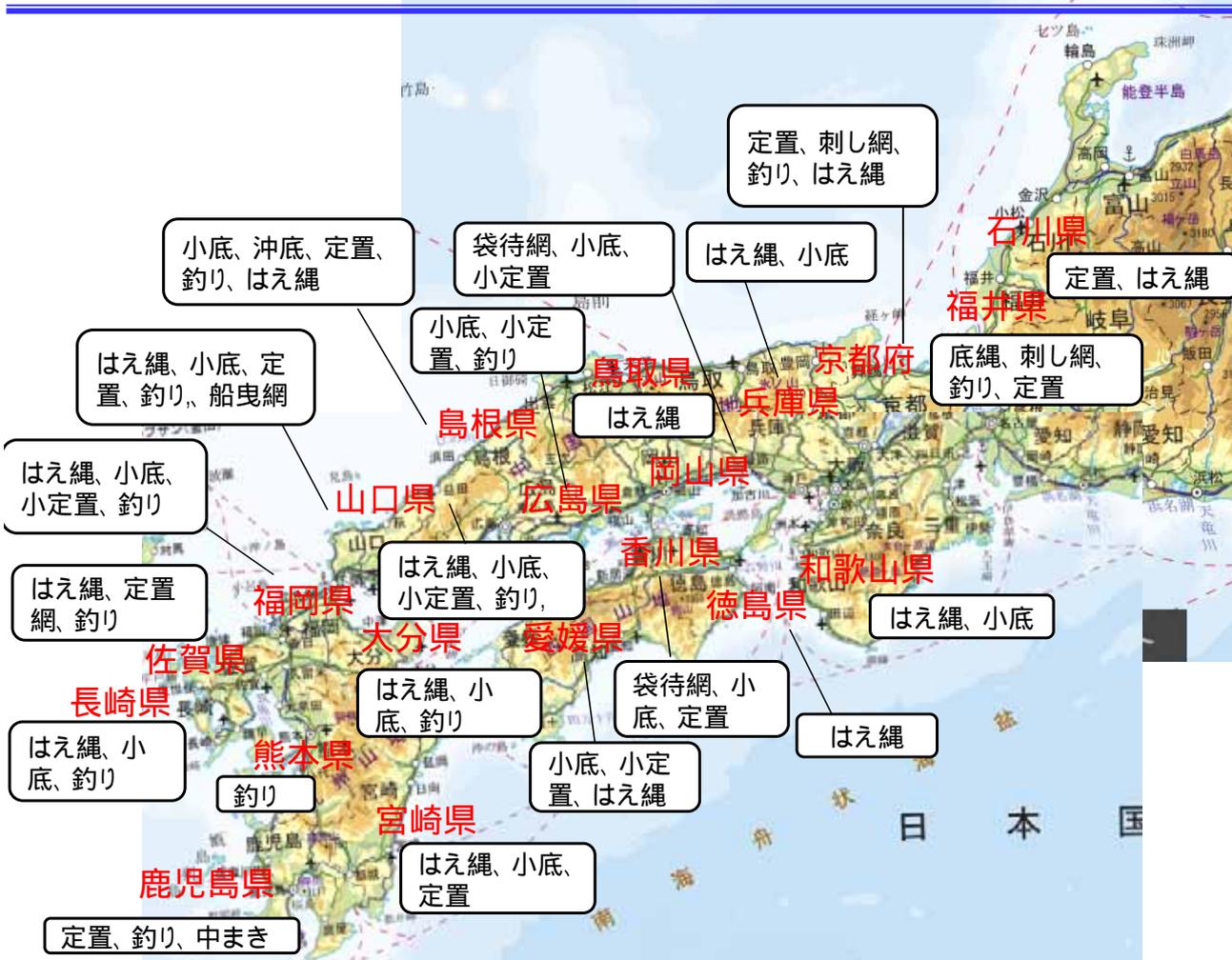
・今後の長期的な将来予測

- ・現在の漁獲を続けた場合、2007年から2016年の平均で784トンあった資源量が、10年後には約322トンまで減少する見込み。
- ・水産研究・教育機構において**現在持ちうるデータを基に一定の仮定のもと予測を行った結果**として、現在の0-1歳魚の漁獲圧を**2割以上削減**しなければ、今後も**資源は減少し続ける**見込み。

漁獲圧の削減とは、例えば、休漁や針数の削減、再放流など漁獲努力量を減らす取り組みのこと



・各府県の漁法について

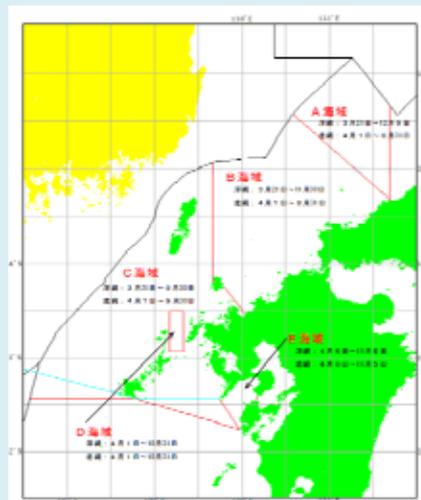


・各浜での資源管理の取組状況

はえ縄漁業（海域：九州～山口県北西）

山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び広島県の漁業者や行政機関等は、トラフグ広域資源管理検討会議を組織し、「九州・山口北西海域トラフグ広域資源管理方針」に基づき、資源回復計画当時の取組を見直しつつ継続実施。

1. 漁獲努力量の削減（広域漁業調整委員会指示による承認制及び届出制）
 - ・ 5トﾝ以上船は承認制（隻数制限）、5トﾝ未満船は届出制
 - ・ 休漁期間の設定（右図のA～Eの5海域）
 - ・ 小型魚再放流（全長25cm以下）
 - ・ 漁獲成績報告の義務付け（漁獲量の把握）
2. 資源の積極的培養（種苗放流）
3. 漁場環境保全（海底清掃等）



5

・各浜での資源管理の取組状況

その他沿岸漁業（定置網、小型底びき、はえ縄等）（海域：瀬戸内海、日本海中西部海域）

各地において、それぞれの漁業の実情を考慮し、独自の取組を実施。

1. 許可時の操業条件で規制
 - ・ 大分県ふぐ延縄：
禁漁期間（4月1日～8月19日）、禁漁区域、浮きはえ縄の漁具使用禁止を規定
2. 休漁期間（自主的取組等）
 - ・ 4月1日～4月20日および毎週日曜日（山口県はえ縄）
 - ・ 4月1日～6月30日（愛媛はえ縄一部地区）
 - ・ 4月1日～8月31日（宮崎県はえ縄）
 - ・ 8月中（広島県5トﾝ以上のはえ縄）
 - ・ 4月～9月の間、年毎決定（和歌山県はえ縄一部地区）
3. 漁具等（自主的取組）
 - ・ 針の太さ1.2mm以上の使用（山口県はえ縄）

各浜での資源管理の取組状況

その他沿岸漁業（定置網、小型底びき、はえ縄等）（海域：瀬戸内海、日本海中西部海域）

各地において、それぞれの漁業の実情を考慮し、独自の取組を実施。

4. 小型魚の再放流（自主的取組）

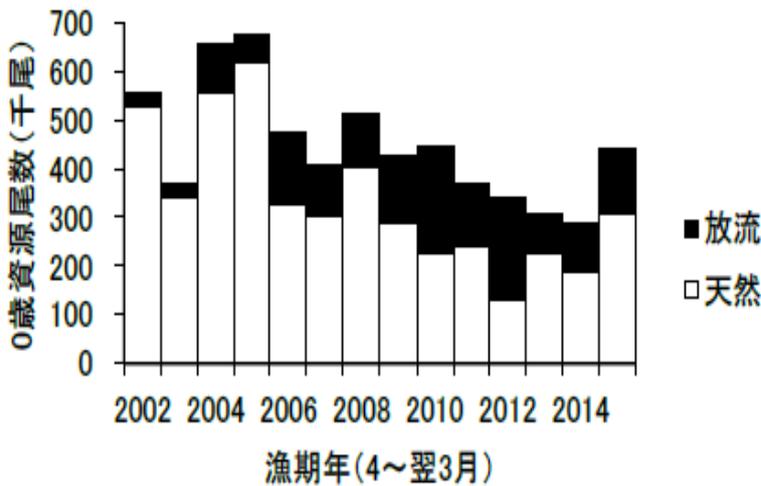
- ・ 10cm以下（広島県、岡山県）
- ・ 12cm以下（広島県一部地区）
- ・ 15cm以下（愛媛県）
- ・ 20cm以下（大分県、愛媛県一部地区小型底びき網）
- ・ 30cm以下（石川県一部地区はえ縄）
- ・ 500g以下（徳島県はえ縄、和歌山県はえ縄一部地区）

5. 海区漁業調整委員会指示

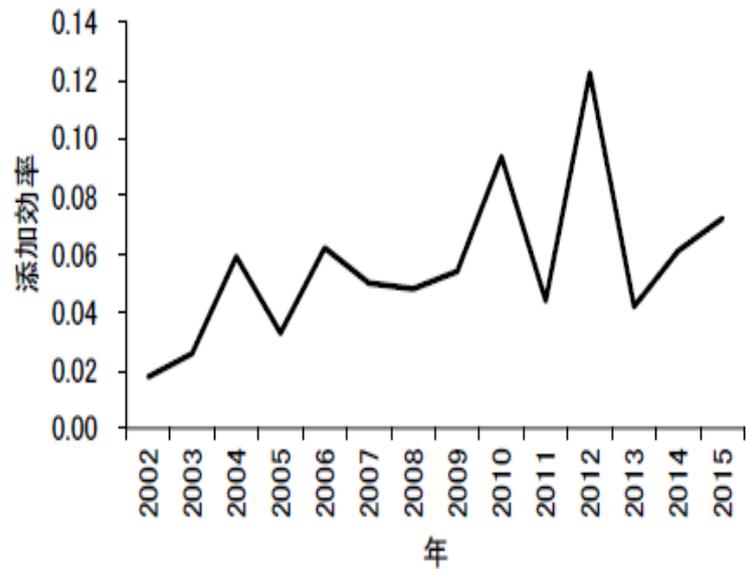
- ・ たる流し漁業の禁止（大分県豊後水道等）
- ・ ふく浮き流し釣り漁業の禁止（愛媛県）
- ・ ふく浮きはえ縄漁業の禁止（愛媛県）
- ・ ひっかけ釣りによるとらふぐの採捕禁止（山口県）
- ・ ふく浮延はえ縄漁業の禁止（山口県）
- ・ 20cm以下のトラフグの採捕禁止（山口県）

水産庁資料

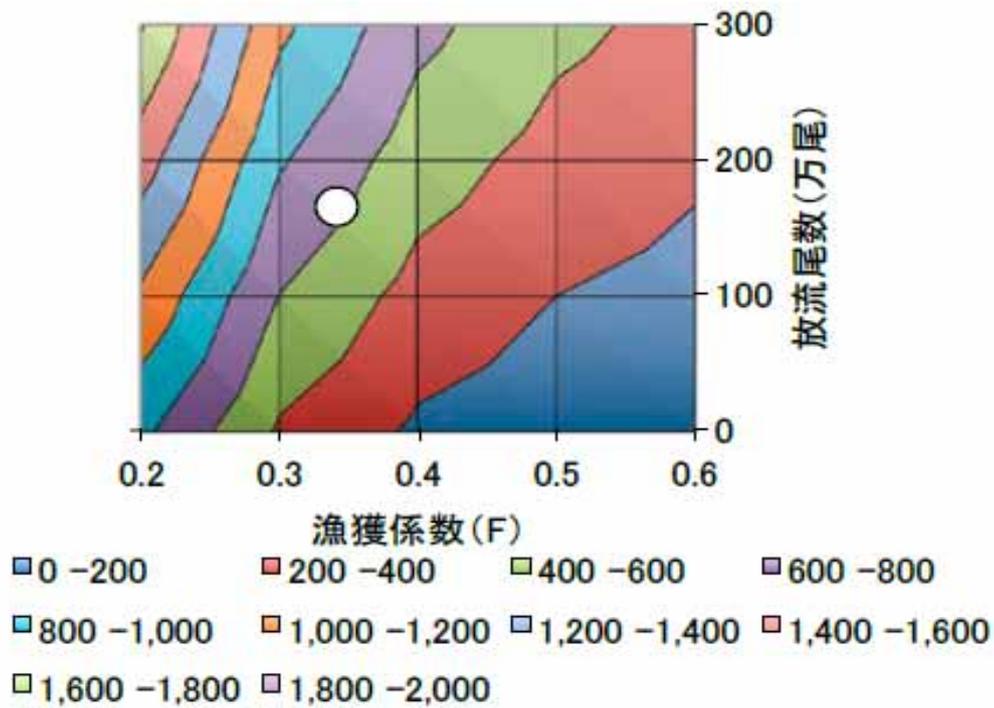
7



0歳資源尾数に占める天然魚と放流魚の内訳



添加効率の推移



2026年漁期の資源量(トン)の等量線図 線図 ポイントは現状のFと放流尾数

「平成28(2016)年度トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源評価」より
 (国立研究開発法人水産研究・教育機構) <http://abchan.fra.go.jp/index.htm>

9

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の人工種苗放流尾数、加入尾数、混入率、添加効率

漁期年	人工種苗放流尾数 (千尾)	0歳魚加入尾数(尾)		混入率 (%)	添加効率
		天然魚	放流魚		
2002	1,720	527,005	30,566	5	0.02
2003	1,412	338,360	36,573	10	0.03
2004	1,722	554,775	101,930	16	0.06
2005	1,717	619,420	56,219	8	0.03
2006	2,268	330,406	141,013	30	0.06
2007	2,171	301,757	109,647	27	0.05
2008	2,291	402,247	110,282	22	0.05
2009	2,605	288,491	140,881	33	0.05
2010	2,375	227,842	221,683	49	0.09
2011	2,940	239,475	129,198	35	0.04
2012	1,729	129,479	211,539	62	0.12
2013	1,852	229,097	78,192	25	0.04
2014	1,721	187,796	104,514	36	0.06
2015	1,853*	308,548	133,821	30	0.07

*概数値。

「平成28(2016)年度トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源評価」より
 (国立研究開発法人水産研究・教育機構) <http://abchan.fra.go.jp/index.htm>

10